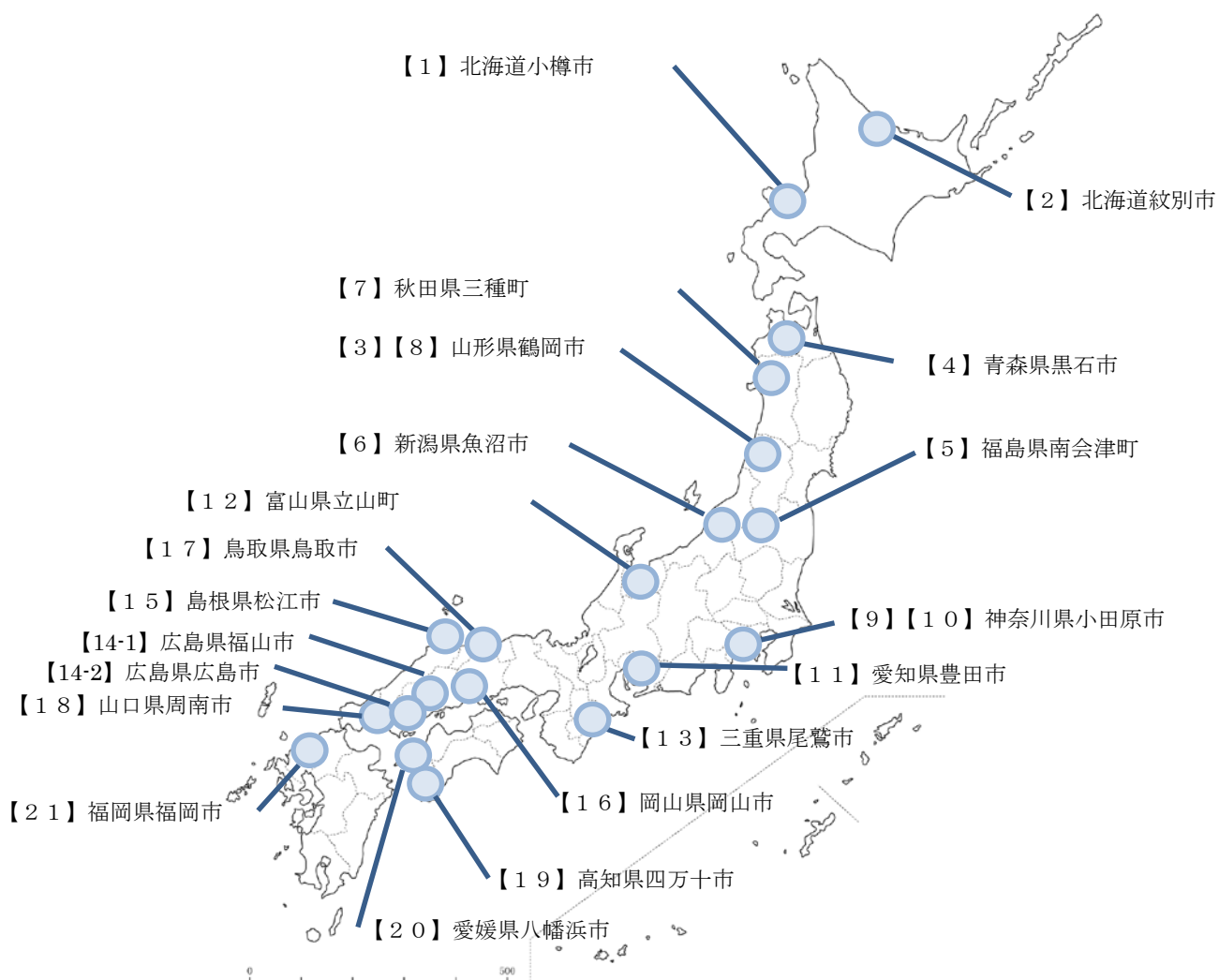


平成23年度は、地域活性化伝道師を以下の20地域に派遣した。



【1】～【2】	北海道ブロック
【3】～【8】	東北圏ブロック
【9】～【10】	首都圏ブロック
【11】～【13】	北陸圏・中部圏ブロック
【14】～【18】	中国圏ブロック
【19】～【20】	四国圏ブロック
【21】	九州圏・沖縄県ブロック

上記の20地域に対し、以下の16名（延べ23名）（※地方連絡室員を除く）の地域活性化伝道師を派遣した。※「所属」等は平成24年4月1日現在のもの。

〈北海道ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
1	中澤 さかな	道の駅／萩しーまーと	駅長／専務理事
2	後藤 健市	合同会社 場所文化機構	代表
	木村 俊昭	地域活性学会	理事（広報交流委員長）

〈東北圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
3	藤村 望洋	早稲田エコステーション研究所	代表研究員
4	金丸 弘美	(有) 万来社	食総合プロデューサー/ 食環境ジャーナリスト
5			
6			
7			
8			

〈首都圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
9	木村 俊昭	地域活性学会	理事（広報交流委員長）
10	白田 典子	(有) 食品工房	代表取締役

〈北陸圏・中部圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
11	服部 敦	中部大学中部高等学術研究所／ (株) フロンティア・プラネット	教授／ 代表取締役
12	富永 一夫	特定非営利活動法人エヌピーオー・フュ ージョン長池	理事長
13	金丸 弘美	(有) 万来社	食総合プロデューサー/ 食環境ジャーナリスト

〈中国圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
14-1	本田 勝之助	(有) 会津食のルネッサンス	代表取締役
14-2	坂本 世津夫	四国情報通信懇談会	運営委員長
1 5	渡邊 法子	アイ・エス・ケー合同会社	代表
1 6	菊池 新一	特定非営利活動法人遠野山・里・暮らしネットワーク	マネージャー
1 7	豊重 哲郎	柳谷自治公民館	館長
1 8	横石 知二	(株) いろどり	代表取締役

〈四国圏ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
1 9	井上 将太	井上地域づくり事務所／ぼうむ合同会社	代表／営業部 (企画・営業)
2 0	勝本 吉伸	オフィス シンセニアン	代表

〈九州圏・沖縄県ブロック〉

No.	伝道師名	所属	役職
2 1	中澤 さかな	道の駅／萩しーまーと	駅長／専務理事

【1】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域活性化	相談主体	民間組織
派遣伝道師	中澤 さかな	ブロック名	北海道
相談内容	<p>小樽市内ではニシンやシャコをテーマとする食に関する様々な取組が進められており、観光面からも高い関心を集めている。また、食クラスターや6次産業化、農商工連携など政策的な支援体制も整備されつつある。</p> <p>今後、小樽において、食関連産業をはじめ、観光業、市民団体等がどのように連携し、食と観光のビジネス展開を行えばよいかを検討するため、この分野において豊富な経験を有する中澤さかな氏を招き、「食と観光のまちづくり」に関する講演を開催することで、小樽の自然と食の魅力を考えるとともに、アドバイスを頂く機会とした。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年10月20日 中澤さかな伝道師講演</p> <p>・萩(山口県)における取組事例の紹介があった。萩の取組には、大きく分けて4段階があり、各段階でどのようなことが行われたかについて、詳細な説明があった。</p> <p>【第一段階:最初の5年間】 まずは、魚祭りを定期開催(必ず6回/年開催、旬の地魚の無料試食)した。とにかく大量に食べてもらうことが重要だった。</p> <p>【第二段階:ブランド化】 10のブランド化のプロセスを、軽重をつけて行った。まふぐ、あまだい等をブランド化し、中小企業庁の「地域資源∞全国展開事業」も活用した。</p> <p>【第三段階:首都圏マーケット】 強力なアドバイザーに参加してもらい、商品を作ったら売れるかどうかチェックをしてもらった。都内の百貨店デパートで売られる際には、萩産であることがわかるシールを貼ってもらった。</p> <p>【第四段階:雑魚をスターに】 地元では雑魚と言われていた小魚である、ひめじ(金太郎)がフレンチの食材でも使われるものだとことを知ったことを受け、メディアをフル活用し、ハイボリュームで全国広報した。その結果、各種雑誌でも紹介され、一躍有名になった。また、有名シェフとの連携も図った。</p> <p>・こうした萩の取組事例を踏まえ、以下のアドバイスがあった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 萩でも相当いろいろなチャレンジをしている。魚価があがったことのような、小さな成果を出していくことが重要である。 2. 小樽の水産物を生かした地域の活性化をするためには、①町ぐるみですること、②やり続けること、③補助金など行政の政策をうまく見つけ出し利用すること、が大切である。 		
成果	<p>●平成23年6月に立ち上げた、食関連産業、観光業、市民団体等による食と観光に関わる情報交換の場である「食と観光フォーラム」において、関係者が地域活性化に向けた検討を行うきっかけとなった。</p>		
課題	<p>●地域住民組織と小樽市との一層の連携が不可欠であると思われる。</p> <p>●市外へのPRのほか、市民への周知についても、積極的な情報発信等が必要と思われる。</p>		
今後の方針	<p>平成24年度も適宜フォローアップを行っていく。</p>		

【2】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	中心市街地活性化	相談主体	紋別市
派遣伝道師	後藤 健市 木村 俊昭	ブロック名	北海道
相談内容	<p>紋別市では、中心市街地の衰退が著しく、商店街のシャッター通り化や駐車場化が進んでいる。その上、郊外に大規模店が出店してきていることも、中心市街地の流出に影響している。</p> <p>こうしたなか、中心市街地で事業を営む店主や若者を中心に、中心市街地を盛り上げようとする活動が始まり、紋別市としても、このような活動を支援していきたいが、知見や適切な支援方法が見いだせないでいる。</p> <p>今後、どのような知見を活用し、支援していけばよいか具体的な事例等助言をいただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成24年1月24日～25日 後藤伝道師講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の空き地等は、それしかないと捉えるのではなく、こんなにスペースがある等、前向きに捉えるべき。発想の転換が必要。 ・補助金が出るから事業を行う、なければやらない。それでは活動のエネルギーは生まれない。また、責任の所在を明らかにしなければ、決断ができなくなり、経営が行き詰ってもやめることができなくなる。「できない」づくしの「引き算のまちづくり」から、「できる」人がやる「足し算のまちづくり」への転換が重要。 ・「ハレの場」(場所の旬を最大限に活かし、わざわざ人が来る場所をつくることで、豊かな時間が過ごせる場所)を作ることが必要。 ・とにかく失敗を恐れず、やってみることが重要。計画を立てることに時間をかけすぎて、実行に至らないことが多くある。PLAN、PLAN・・・では、何にも見えてこない。実際にいろいろやってみて、当初見えていなかったことも見えてくるものであり、そうした実体験をもとに計画(PLAN)を立てることが重要。 <p>●平成24年2月20日～21日 木村伝道師講演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地活性化に関して、空き店舗に店をうめるだけの部分・個別の最適化では、中心市街地の活性化には繋がらない。中心市街地の制度設計をしっかりと立てることで全体最適が図られる。 ・大学等と連携して、まちづくりに参画できるような人材を育てる必要がある。東京農大では卒業後8年の実務経験をもって大学院修士課程に入学することも可能になった。そういうのも活用しながら人材の定着を進めることも大切。 ・紋別市では当たり前のもでも、他の地域に持っていくと価値が大きく上がるものがある。行政はどの地域が何を求めているかを把握して、その情報を地元へ流して企業の判断に任せるといったようなやり方がいい。 ・PR活動にもっと力を入れるべき。例えば紋別市に駅伝の夏合宿で来ている学生に、地元へ戻って紋別の良さを広めてもらえるように、地元との交流なども考えるべき。 		
成果	●中心市街地活性化計画策定のため、アドバイザー予算をみるなど、今後の対応について示された。		
課題	●依然として、具体性を持っていないのが現状であり、行政、住民、商工業者が協力して、どのような中心市街地の活性化を図るかについて、具体的な方向性を決めることが課題。		
今後の方針	平成24年度も適宜フォローアップを行っていく。		

【3】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業	相談主体	鶴岡市、中通り商店街、出羽商工会
派遣伝道師	藤村 望洋	ブロック名	東北圏
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・鶴岡市…庄内地域の伝統作物や食文化を守っていくための取組について相談したい。また、それを総合特区の取組として活用できるかについても相談したい。 ・中通り商店街、出羽商工会…藤村氏の持つ関西の料理人ネットワークを通じて、庄内地域の農産物を大阪圏へ販路拡大するためのアドバイスがほしい。 		
相談への対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ●平成23年4月19日、20日に現地にて、藤村伝道師より以下のとおり助言。 ●鶴岡市(平成23年4月19日) <ul style="list-style-type: none"> ・飛鳥は、かつて北前船が寄港していたことで、旅館に上方料理が浸透しているが、過疎化の進行により後継者が不在のため、料理文化が途絶えるおそれがある。このため、観光客が、グループを組んで各自出資してLLPを設立し、旅館経営者とともに共同経営を行ってはどうか(リリース・パートナーシップ制度)。経営が順調に進んだ場合は、定年で帰郷した経営者の子供に経営を引き継ぐ(共同経営の契約期間を5～10年)。 ・この案を鶴岡市は「つるおか森林文化都市総合特区(案)」に活用できるかを検討し、総合特区本申請に向けてとりまとめを行う。 ●中通り商店街(平成23年4月19日) <ul style="list-style-type: none"> 庄内の農産物、例えば、ただちや豆は関東ではそこそこ知名度はあるが、関西では無名。このため、庄内農産物の生産者が連携し、一流の料理人の集まりであるシェフ・ジャパンの推薦(料理人ネットワーク)により、大ロットの間屋ルート、中ロットのホテル・レストランルート、小ロットの一般消費者ルートで関西圏への販路拡大を図っていくことを提案。 ●出羽商工会(平成23年4月20日) <ul style="list-style-type: none"> ・出羽商工会より、新会社を設立し、関西圏への農産物の販路拡大を図ってほしいとの要望。 ・藤村氏より、一流の料理人の集まりであるシェフ・ジャパンの推薦(料理人ネットワーク)により、大ロットの間屋ルート、中ロットのホテル・レストランルート、小ロットの一般消費者ルートで関西圏への販路拡大を図っていくことを提案。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●鶴岡市は、庄内地域の食文化の掘り起こし・再興に向けた諸活動等を展開。 ●平成23年度に関西の料理人ネットワークを通じて、庄内の農産物の大阪圏への販売が実現。引き続き販路拡大を図っていく。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の特色ある食文化をどのようにして維持していくか。 ●地域の農産物を未開の地に売り込むには、生産者と販売者をつなぐ仲介役が必要。 ●消費者の需要に合った商品があるか。目玉となる商品があるか。 		
今後の方針	<p>地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

【4】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業、観光	相談主体	青森県黒石市 (市、商工会議所、旅館 ほか)
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏
相談内容	<p>黒石市は地方の元気再生事業において、市街地と温泉郷の交通アクセス改善等、観光客の満足度を高める施策に取り組んできているが、今後地域が取り組むこととしている地元の食材や料理のマーケティング手法についての助言をお願いしたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年6月22日(水) 15:30～ (黒石市街地、黒石商工会議所) ・数年前の食品偽装の事件がきっかけとなり、消費者は生産者や生産地域にまで関心を持つようになった。東京駅近隣では、他店との差別化を図るために、どこで生産された食材を使用しているか示しているという例もある。これからの農業は農産物のユニーク性が重要となる。 ・2004年をピークに日本の人口は減少が始まり、これまで重要とされてきた大量生産は小売価格の下落を招き、そのしわ寄せは生産者にまで及ぶ。 ・これまでは流通に向くように改良された、形がよく、痛みにくい農産物の生産に偏重していた。ユニーク性を高めるためには、流通体系についても新たなシステムの構築が必要。</p> <p>●平成23年6月23日(木) 10:00～ (黒石市街地) ・これまで旅館、飲食店がお互いどのようなサービスを提供しているのか知らなかったのは問題であり、全体の最適化を図るにはお互いを知ることが必要である。 ・地域性を出すには食材にこだわるだけでなく、調味料にもこだわる必要がある。 ・生産者から料理人まで食に携わる人はその食材について種から出荷先まで徹底的に調査し、消費者に説明できるようにすべきである。安心安全を伝えるためには、文字通り「安心安全」と抽象的な言葉で語るより、その食材に関する具体的な情報を説明した方が説得力は増す。実際に食材についてのテキストを作成した市町村では大きな成果をあげている。 ・一般的に日本人の売り方は欧米人に比べて下手である。売り手がおいしさを説明できないものは消費者への訴求にならない。 ・地域の人に無料で振舞う情報発信は非効率。マスコミや有名ブロガーなど、情報発信力のある媒体に集中することにより費用対効果を大きくすることができる。</p>		
成果	<p>●現地の実施主体との意見交換とともに、伝道師から国内外の取り組み事例を踏まえたアドバイスを実施。</p>		
課題	<p>●①ユニーク性を高める方法、②自分たちがまず食材を知るための取組、③新たな流通過程の構築の3点を検討することが必要である。</p>		
今後の方針	<p>地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		

【5】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域再生	相談主体	福島県南会津町、福島県、南会津町 商工会関係者等
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏
相談内容	<p>東日本大震災からの福島県復興ビジョン素案は、3つの基本理念として「原子力に依存しない、安全・安心で持続的に発展可能な社会づくり」、「ふくしまを愛し、心を寄せるすべての人々の力を結集した復興」、「誇りあるふるさと再生の実現」を掲げている。</p> <p>南会津地域において、就業機会の創出や経済基盤の強化、地域コミュニティを支える生活環境の向上など、地域の活力の再生をいかに進めていくべきかが、ポイントとなっています。このような中で、新たな地域づくり等を総合的に支援するため、復興特区や地域活性化総合特区などの総合特区制度の活用が大きく取り上げられてきております。</p> <p>これらを踏まえ当町においても、復興に向けた主要施策としている「地域のきずなづくりの再生」、「新たな時代をリードする産業の創出」、「再生可能エネルギーの飛躍的推進」等の新たな社会づくりのヒントを得るために講演会を開催し、伝道師からの助言を得、併せて今後の地域活力の再生の要となり得る町内主要施設への改善等のアドバイスをお願いしたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年9月1日 南会津町御蔵入交流館 多目的ホール 金丸伝道師による講演 《講演内容》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろと南会津を見せてもらったが、とてもいい所であり、今後、観光においては抜群ではないかと感じた。 ・ツーリングにふさわしい、B&Bのような、長期滞在型の宿泊施設があると良い。 ・町としてフィルムコミッションでの映画のロケ誘致や、環境やオーガニックの推進を打ち出すべきではないかとも思われる。 <p>金丸伝道師によるアドバイス 【ふるさと物産館にて】 何をしようとするのかコンセプトがわからない。商品は加工品も含め地域のものにこだわるべき。ソフトクリームを販売するのであれば、ここでしか食べられないオリジナルを開発したほうがよい。</p> <p>●平成23年9月2日 金丸伝道師によるアドバイス 【うつくしまロハスセンター・健康市場にて】 オーガニック商品も地域からもっと多く取り揃えられる取り組みが必要である。さらに、行政が環境やオーガニックについて、もっと積極的に打ち出すことが必要。</p>		
成果	<p>●少しづつではあるが、地場産品を取り揃え、また、ミニトマトジュースや食用ホオヅキ等の商品開発が進められてきている。</p> <p>●オーガニック商品についても、オーガニック推進協議会によりモデル事業を推進しているところである。</p> <p>●環境関係についても、地域循環型の再生可能エネルギーについて、今後、地域のNPO法人等と事業実施に向け、総合特区制度等に申請を計画中。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●食が弱いので、もっと加工や料理の面で力をそそぐべき。 ●地域の素材や加工業との連携で商品開発を進めるべき。 ●素材を明確に語る、テキスト化も必要と感じられる。 ●冬期間の商品確保や総合特区制度申請に向けたノウハウが不足している。 		
今後の方針	<p>地域の取組が具体化してきた段階で、地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや伝道師の派遣等による支援を行っていきたい。</p>		

【6】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業、観光	相談主体	NPO法人野外教育学習センター魚沼伝承館
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏
相談内容	<p>限界集落の移住定住事業を進めているが、集落を持続可能な形にするためには、地域の収入の向上や雇用条件を改善していく必要があると考えている。地域の魅力を高めるための具体的な方策等について助言をお願いしたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年10月13日(木)～14日(金)(新潟県魚沼市内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の地場産品について、どの時期に何が取れるのかをまずは割り出すことが必要ではないか。行政や大学に協力してもらい栄養分析などを行うということも考えられる。そのうえで、料理展開を東京の有名シェフに考えてもらってはどうか。地場産品の後ろの背景から組み立てていった方がよい。地域の地場産品を1次産品のままで市場に出しても価格競争にさらされてしまう。地域の「この時期にこれだけしか取れない」といった売りを前面に出していく必要がある。 ・NPOが取り組んでいる自然体験事業と他の事業との組み合わせが弱いと感じる。子供たちがキャンプで宿泊に来るということは、その親もついてくるはずであり、その人たちがお金を落としていくような仕組みの検討や、キャンプなどにしても、泊まるだけでそれが夏休みの宿題になるといったような付加価値化を考えることも必要ではないか。 ・また体験事業については、東京などの学校に魚沼市から宣伝しているとのことだが、もっとプログラムの充実を図った方がいい。様々なメニューを作り、それを組み合わせると1つのプログラムを体験者が選択・決定できるような仕組みを作ってはどうか。 ・地域の関与を促すため、ボランティアではなく、しっかりと地域にお金が入る仕組みを作ることも必要と感じる。実際にやって、収入が入れば意欲も湧くし変わってくる。そこから口コミで広がれば地域で参加する人も増えていくのではないか。 ・一度、若い職員を先進地に研修で派遣してはどうか。先進地を紹介することも可能である。 		
成果	<p>●先進地の取り組み事例を踏まえた具体的な助言等を参考に、限界集落の活性化に向けた必要な助言等を行うことができた。</p>		
課題	<p>●地域では、今後の具体的な取組について検討を続けているところ。</p>		
今後の方針	<p>地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		

【7】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業、観光	相談主体	秋田県三種町(三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会)
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏
相談内容	<p>三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会では、平成23年度から25年度にかけて、「森岳じゅんさいがリードする新しい田舎ビジネスの創造ーじゅんさい10億円+αを目指した複合的挑戦」と題するプロジェクトを進めている。じゅんさいのあるべき市場取引に関する助言をお願いしたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年11月1日(火)～2日(水) (秋田県三種町内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少、高齢化で食べ物が売れなくなっている。大型店をはじめ、スーパーなどの食品販売も苦戦し、市場でも多くの商品の値段が下がってきている。このような状況の中では、既存の市場取引の中だけで売り上げを引き上げるとするのは難しいと感じる。伸びている地域は直接取引に力を入れているので、市場に売り込むよりは、まずは地元でじゅんさい自体に付加価値をつけて価格を上げていく必要があると考える。 ・頑張っている地域は食育に積極的に取り組んでいる。全国的に対面販売することがなくなっている中で、例えば、ここに教育システムを作って、地元の人が子供たちに地元の食材の説明をし、ファンを増やして地元での消費を増やしている地域がある。また、学校給食の手配の際に、地域の旬が何かを栄養士が知って、そこから給食を組み立ててもらうことで、地域の食材の魅力を発信し、地元で地域の食材への理解を広げている地域も出てきている。 ・食材のテキスト化に取り組むことも重要である。これを徹底的に行うことによって、その食材がいつどこで作られて、どういう環境で育っているのか、料理展開はどのようなのかといったその食材の魅力を地域が対外的にぶれることなく説明できるようになり、外への売り込みも容易になる。 ・また、地域の直売所でも、地元の食材に限定した集積を行うなどコンセプトを明確にすることで集客を図り、生産者の収入を引き上げることも考えられる。 ・こういった地域の取り組みをまずは行うことで、周辺の消費者も動き始め、地域での消費は拡大していくし、その実績があれば、外への食材の売り込みも容易になってくるのではないかと。成功している所は市場任せとはしていない。じゅんさいもまずは地域でこういった付加価値をつけるための取組をしていくことが必要なのではないか。 		
成果	<p>●現地の実施主体への助言や活発な意見交換の中で、国内の先進的な取り組み事例を踏まえたアドバイス等を行うことができた。</p>		
課題	<p>●様々な先進地の取り組み事例を踏まえた助言等を参考に、地域では、課題となっている外国産のじゅんさいとの差別化を図るための取組や、じゅんさいの知名度の向上に向けた取組、食育や周辺の観光地や農家の連携の推進に向けた取り組み、また協議会が目標としている市場取引の拡大に向けた今後の取り組みについて検討を続けている。</p>		
今後の方針	<p>地域の取組が具体化してきた段階で、地域からの要請に応じて、今後もコンサルティングや伝道師の派遣等による支援を行っていく。</p>		

【8】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	農林水産業、観光	相談主体	鶴岡市、出羽商工会
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	東北圏
相談内容	<p>・鶴岡市…ユネスコ創造都市ネットワーク(食文化都市)への加盟を目指し、鶴岡市では食文化の掘り起こし等の諸活動を展開しており、活動の方向性についてアドバイスを受けたい。</p> <p>・出羽商工会…庄内地域に観光客を呼び込むための核となる、太陽光等エネルギーを活用した植物工場、温泉熱等活用した園芸ハウスや植物園、滞在型農園及び直売所等を設置するアグリランド(仮称)構想について、実現可能かの観点から助言を受けたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成24年3月18日、19日に現地にて、金丸伝道師より以下のとおり助言。</p> <p>●鶴岡市(平成24年3月18日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方向性はとてもよい。 ・鶴岡市は、農作物の品種、栽培の歴史、栽培方法、栽培地域、取扱先、料理方法などをまとめた食のテキスト化をするべき。鶴岡市の食のブランド化につながる。 ・食育は保健担当課と教育委員会が連携をとって進めるべき。ファストフードばかりを食べたり、深夜まで起きている子供たちが増えたため、子供たちにアトピー、肥満など生活習慣病が広まった。生活習慣病に関するデータは保健担当課が持っているの、そのデータを教育委員会にもらって食生活の改善を考えるべき。 <p>●出羽商工会(平成24年3月19日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部やろうとするのではなく、できるものからやるべき。 ・植物工場は建設費、維持費がかかり、それ単体では採算に合わない。 ・クラインガルテンは土地をとる割に管理費を考えると採算が合わない。 ・体験農園は1反100万円の収入になる。千葉、埼玉などでは農家が教えている。 ・直売所はマージンが15%、高くて20%、人件費等を考えると、2億円の売上がなければ採算が合わない。いまはレストランや加工品に重点を置いているのが成功している。 ・コテージ(建物①棟600万円)をつくって、ショートステイでここを拠点に観光に行くスタイルがよい。外で遊び、コテージの中では産直で買ってきたものを料理して楽しむ。 ・加工をするなら、周辺の農家と契約して、原料を供給してもらい、加工だけを行った方がよい。 ・人の教育にお金をかけていないところは失敗している。マネジメント能力のある人材供給が必要。うまくいっている所はものづくりと人材づくりがしっかりしている所。 		
成果	<p>●鶴岡市は、食文化の掘り起こし等の諸活動を引き続き行い、また、食のテキスト化等についても検討し、平成24年度にユネスコ創造都市ネットワーク(食文化都市)への加盟を申請予定。</p> <p>●出羽商工会ではアグリランド(仮称)構想の実現に向け計画を検討中。</p>		
課題	<p>●鶴岡市は、取組の方向性は特に問題はない。</p> <p>●出羽商工会は、実現可能性を高めるため、再度計画を検討。</p>		
今後の方針	<p>地域から要請があった場合は、コンサルティングの実施や伝道師の派遣の検討を行う。</p>		

【9】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域産業 (城下町・小田原ブランド戦略フォーラム)	相談主体	神奈川県小田原市
派遣伝道師	木村 俊昭	ブロック名	首都圏
相談内容	<p>地域産業の振興策として、近年注目されている地域ブランドによる地域振興について、業界団体の啓発を図るため、観光振興の観点による『地域資源を活用した地域おこし』をテーマとし、フォーラムを開催する。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成24年2月3日(金) 13:00~15:00 小田原箱根商工会議所 木村俊昭伝道師による地域産業経営者、関連団体・関係機関を対象とした講演</p> <p>(講演内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減や高齢化などの課題が山積する中で、地域資源を活用した地域活性化には次のポイントが重要。 ①地域所得、売上の向上 ②地域人財育成と定着のシステム化 ③地域で汗する人を評価する仕組みづくり ④女性、若手、年配者の活躍する場づくりと支援体制 ⑤まちの将来を見据えた新たな産業文化おこし ・部分部分の最適化をつなげ、全体の最適化を目指すことが重要。 		
成果	<p>●今回の講演会に参加した地方公共団体や商工会議所等業界団体において、小田原市の地域資源を有効活用するための新たな視点づくりの一助となった。</p>		
課題	<p>●講演を機に、具体的な取り組みを地方公共団体や商工会議所等業界団体が一体となって検討していくことが必要。</p>		
今後の方針	<p>今後、必要に応じて継続的に相談を受けることとする。</p>		

【10】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	地域産業 (小田原かまぼこの開発)	相談主体	神奈川県小田原市 小田原蒲鉾協同組合
派遣伝道師	白田 典子	ブロック名	首都圏
相談内容	未利用の地魚と地元間伐材を活用した新しい小田原かまぼこの開発にあたり、マーケティング戦略等を相談。		
相談への対応内容	<p>●平成24年2月22日(水) 14:30~16:30 小田原蒲鉾会館 白田典子伝道師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品物のデザインは、パッケージのみとかロゴのみとかではなく、商品全体のバランスであり、出来れば中身が丸見えの品物のほうが、美味しそうに見える。お客様にいかに美味しそうに思ってもらえるかが重要。 ・販売するお店や売り場(棚やコーナー)を変えると、売れる可能性もある。 ・購買動機により、商品の価値は変化する。入り口(商品との出会い)の違いで、売れる商品になる。 		
成果	●白田伝道師の消費者目線のアドバイスにより、商品開発の方向性の検討に役立った。		
課題	<p>●地元の間伐材の活用法における課題について、以下のとおり意見交換があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の間伐材だから売れるかという必ずしもそうではない。 ・商品になんらかのコンセプト・メッセージが必要で、間伐材にもっと楽しみや親しみを持たせるなどの工夫が必要となる。 		
今後の方針	白田伝道師のアドバイスを踏まえ、商品開発等を検討していくこととなった。		

【11】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光、交通	相談主体	愛知環状鉄道協議会 (沿線の自治体・商工会議所)
派遣伝道師	服部 敦	ブロック名	北陸圏・中部圏
相談内容	<p>愛知環状鉄道沿線地域の活性化に向け必要なハード(駅前広場、駐車場等)・ソフト(観光施設・イベント等の広域的な連携)両面の整備を推進していく必要がある。 こうした地域活性化事業を効果的に実施していくためには、広域的な連携や地域の関係者等の人材育成が必要となるが、どのような方法で行ったらよいか。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年8月30日 服部伝道師による助言 ・各団体からの現況・取組等を発表後、伝道師を交え分野(交通・産業・観光)ごとに意見交換を行った。</p> <p>①新たな連携軸の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共有ツールの開発(ポイントカード等) ・農商工連携(6次産業、農産物等による活性化) ・産学連携、大学間連携(研究開発等) ・観光連携(フィルムコミッション等) ・沿線景観の保全、創造(文化的景観等) ・連携主体の創造(エアーマネジメント等) <p>②沿線エリア全体の魅力の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなエリアイメージ(地域の呼称等) ・統一的なブランド開発(観光ルート等) ・機能集積の促進(起業支援等) <p>③広域的な集客力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接続交通網との連携(自動車交通との連携等) ・沿線情報の発信(ポータルサイト等) ・中部、東海地域全体の戦略への位置づけ(広域観光等) 		
成果	<p>●服部伝道師の助言のもとに、各団体が考えている方策や問題点等について意見交換を行い、意見交換する中で関係者間相互の理解が深まった。</p>		
課題	<p>●意見交換の中で出された提案等について、優先順位・実現性等について検討が必要。</p>		
今後の方針	<p>・9月中旬 ICカード導入に向けた検討会 ・10月中旬 交通、産業、観光の各分野における意見交換</p>		

【12】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域コミュニティ	相談主体	富山県立山町
派遣伝道師	富永 一夫	ブロック名	北陸圏・中部圏
相談内容	<p>立山町には、とやま健康の森「立山グリーンパーク吉峰」という広大な自然公園があり、温泉や宿泊施設、オートキャンプやパークゴルフ場など多彩なアウトドア施設を備えている。</p> <p>広大な敷地に点在する施設や植栽などを良好な状態で効率的に管理することが大きな課題であり、行政（町）の負担だけでは立ち行かなくなっていることから、公園利用者や地域住民を巻き込んだ「協働」による公園管理や、管理業務を通じて地域経済に雇用を創出するなどの取り組みを模索している。地域コミュニティの再生やボランティア支援などの地域活動を通じてNPOを設立するとともに、八王子長池公園の指定管理者として協働による管理運営に取り組みられてきた富永伝道師からの指導と意見交換を通じて、関係者の意識醸成を図りたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成24年2月9日 ○富永伝道師からのアドバイス(利用団体向け) 【地域活性化懇親会】利用団体と町・施設職員に対し富永伝道師と意見交換を実施し、アドバイスをいただく ○参加利用団体＝吉峰野開地区・パークゴルフ協会・レクレーション協会・山岳協会・山野草会・山菜友の会・蘭愛好会・万年青愛好会・うちょう蘭愛好会・さつき会・老鴉柿愛好会・ハーベンドーの会 ＜頻繁に利用する団体(ボランティア)が自ら協力し、施設の発展に寄与することが大事＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数の増員に向けた勧誘活動の強化(利用者増加に向けて) ・若い会員の加入促進(10年後を見据えて、利用者継続に向けて) ・客単価UPに貢献する。自ら施設利用時に飲食等出来る限り施設を利用(売上増に向けて) ・利用頻度の少ない遊休施設の活かし方を利用団体の目線でも検討要 ・表示看板作成や備品等の購入に際して、利用団体の展示等の募金箱を用意しその資金を活用 ・展示等で利用する団体の広報活動は、行政からプレスリリースしてもらうよう依頼 <p>●平成24年2月10日 ○富永伝道師からのアドバイス(実務者向け) 【実務者検討会】町・財団法人立山グリーンパーク実務者に対し富永伝道師と今後の取組を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団法人立山グリーンパークから「(株)たてやま」の次は、完全に「民間の指定管理者」が受託できるようにして、財産の所有は立山町、経営は「民間の指定管理者」になり、利用者の満足度を高める。 ・「民間の指定管理者」の選定のためにも、民間のコンサルを入れる。そして、仮に民間100%で所有した場合の経営に関する事業計画を作成する。 ・近い将来の「理想的な指定管理者像」は、「(仮称)NPO法人吉峰」を平成24年度中に設立して育成し、将来的には指定管理者の代表団体になってもらい、コンサル会社や造園会社をアシスタントとする三者連合事業体で運営する。 ・「(仮称)NPO法人吉峰」の代表を30代の若者3人ぐらいを中心とした人材を結集して体制を組む。未来への後継も合わせて出来るようにする。 		
成果	<p>●今まで、町と利用団体とは何度も意見交換を重ねて来たが、富永伝道師がすべての利用団体からの意見をヒアリングして、それに対して丁寧にアドバイスをしたことにより、関係者間(利用者、施設、町)の相互理解が深まった。また、他地域で成功しているNPO法人の代表である富永伝道師の意見は、実例をわかりやすく解説されとても説得力があった。</p>		
課題	<p>●公益施設の維持管理について、今後も構築物、什器備品の修繕が増加。メンテナンス計画をどのように作成していくかについても検討が必要。</p>		
今後の方針	<p>平成24年より財団法人を株式会社化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年2月1日 「株式会社たてやま」設立 ・平成24年4月1日 グリーンパーク吉峰・グリーンパル吉峰・陶農館・元気交流ステーションの指定管理者として管理予定 		

【13】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域コミュニティ	相談主体	尾鷲部会(三重県尾鷲市)
派遣伝道師	金丸 弘美	ブロック名	北陸圏・中部圏
相談内容	<p>前浜の魚(未利用魚や低利用魚も含め)をはじめ、地域の資源を活用した消費者に受け入れられる水産加工商品を目指し、地域のブランド化にもつながるような具体的な商品開発づくりを推進していきたい。そのため、全国各地で数々の事業に携わっておられる伝道師に講演及び現地を視察・調査いただき、アドバイスをいただきたい。さらに、意見交換を通じて、商品開発の推進・地域づくりを図りたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●日 程 平成24年2月25日(土)～平成24年2月26日(日) 金丸弘美伝道師</p> <p>【講演】 全国各地の“食”からの地域づくりの事例について紹介。事例の中で、商品化に至った経緯、プロセスをご説明いただきつつ、伝道師より以下の意見をいただいた。 ・地域でとれるものを、特産品に限らずすべて洗い出し、組合せにて商品化することもできる。 ・新たな工場をつくるといった発想ではなく、今できることをやる。 ・小ロットではあるが、売り方を工夫する。</p> <p>【現地の視察・調査・意見交換】 ●道の駅(特産物等販売所) ・県内どこにでも売っているものではなく、小ロットでここでしか買えない地元の“本物”の商品をもっと置く必要がある。 ・酒のつまみがコンセプトの商品があるのであれば、道の駅内にバーを開くといったことも検討してみてもどうか。 ・地域住民がくつろげる場所を提供することも必要。</p> <p>●水産加工品の作業(加工)場等 ・作業場の雰囲気を残しつつ、販売等を行うなど加工とセットでやると面白いのではないか。</p>		
成果	<p>●講演で、各地の取組をご紹介いただいたことで、参加者へは今後の取組の参考となり、部会での議論をより深めるきっかけとなった。</p> <p>●現場での意見交換等により、伝道師から実態に沿った具体的アドバイスがなされた。</p>		
課題	<p>●上記「相談への対応内容」にある通り、商品づくりと販売(売り方、見せ方)をどのようにしていくか、検討する必要がある。</p>		
今後の方針	<p>伝道師からご指摘をいただいた点について、今後検討する。</p>		

【14】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	その他	相談主体	広島県福山市
派遣伝道師	本田 勝之助 坂本 世津夫	ブロック名	中国圏
相談内容	<p>福山市では、平成23年度に市制施行95周年を迎え、100周年に向けて様々な活性化の取組を進めている。その中で、福山発の食ブランド「福山うずみごはん」や、市花である「ばら」を福山市の都市ブランドとして確立する取組も進めている。</p> <p>市では、市民協働の取組として「市民会議」や「懇談会」等を設置しているが、現行計画案に市民意見を反映し、レベルアップを図るために、外部専門家による助言・指導を求めている。</p>		
相談への対応内容	<p>■平成23年7月21日：福山食ブランド創出市民会議 [14-1] 本田伝道師の派遣 ■現状・課題 福山発の食ブランド「福山うずみごはん」のプロデュース手法、今後の展開について。 ■指導内容 「食の福袋の作り方」をテーマに、市民会議メンバーへの講演による指導やワークショップ開催による意識啓発を行う。 ・福山のライフスタイルの中でのうずみ料理の位置付けや、観光客が福山市を訪れたいくなる仕掛けづくり。 ・家庭の手作り弁当に隠された「うずみ言葉」やグルメフェスタを活用したブランディング。</p> <p>●平成23年9月29日：広島市南区民文化ホール 地域活性化応援会 [14-2] 坂本伝道師個別相談 ※地域活性化応援会概要 住民・企業・行政を問わず、地域活性化に関心がある主体を対象として、県・各省庁支分部局も参加し、自主的・自立的な地域づくりに向けた参加者の意識高揚を図るとともに、参加者が、地域づくりのプロである講師と接することで実践的な手法を学び、今後の地域活性化の契機となるような取組（講演会・個別相談会）を中国地方5県で実施。 広島会場では、講演会に52名が参加、個別相談会には福山市を含め5団体が参加。 ■現状・課題 市の花「ばら」を市の都市ブランドとして確立するために「100万本のばらのまちづくり」を推進。福山駅からばら公園（花園町）まで、「ばらのシンボルロード」を整備予定。市民代表者からなる懇談会において、戦略的なマーケティングによるコンセプトの確立と市民協働の取組みによる提言取りまとめを検討。 ■指導内容 ・現行の市計画との整合性について検証し、横断的な調整や市の意思決定プロセスを踏まえたスケジューリングが必要。 ・専門家の紹介及び地域活性化伝道師の派遣等については、事業の動向と必要性に応じて適切な人選が必要であるため、継続的に調整を行う。</p> <p>■事務局フォローアップ（平成24年1月） ・専門家派遣については、市の希望する人材は予算超過のため断念。 ・市内の3大学から学生をそれぞれ3人ずつ選出し、現地調査や現況課題の抽出を行うワーキング会議に参加。若者の創造力を取りいれながら、市民協働の取組を推進している。</p>		
成果	<p>●福山市については、平成22年度の地域活性化応援会を踏まえ北野尚人伝道師を派遣し、また平成23年6月には本田勝之助伝道師を派遣、9月には「地域活性化応援会」において個別相談を行うなど、継続的に支援しているところ。市制100周年に向けた活性化の施策が着実に実施されている。</p>		
課題	<p>●市制100周年に向けた実施事業について、担当所管から若手職員が「地域活性化応援会」に参加する等、取組推進に向けた機運が高まっている一方で、活性化に向けたツールやノウハウの一層の支援を必要としている。</p>		
今後の方針	<p>本取組みは、市制100周年に向けた福山市活性化事業のうちの取組のひとつとして都市ブランド化事業の一環として実施されている。今後、他の取組みと有機的に関係、発展していくことが見込まれることから、今後の取組の状況に応じて、中国圏地方連絡室の地方支分部局スタッフや伝道師の派遣等必要な支援を実施していく。</p>		

【15】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	まちづくり	相談主体	樹冠ネットワーク
派遣伝道師	渡邊 法子	ブロック名	中国圏
相談内容	<p>島根県江の川流域で、森林保全と木材利用に取り組む先人の知恵に注目して、地域活性化を目指す団体が、江戸時代に建設された郷蔵という公の蔵の改修(平成25年春に完成予定)と、その活用についてワークショップ形式で検討中。渡邊伝道師の経験を踏まえた助言を期待。</p> <p>【相談内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・組織として目指している究極の目的は「森林保全」であり、そのために山を守り木を活かす手段として、山の資源(間伐材)の活用方法を熟知している高齢者に関わっていただき、「郷蔵普請(ごうぐらふしん=公の蔵の改修)」に取り組んでいる。 ・完成後、郷蔵を拠点に古文書に親しむ交流事業等の展開を模索している。 		
相談への対応内容	<ul style="list-style-type: none"> ●平成23年9月30日 地域活性化応援会(島根県松江市会場)の個別相談会 渡邊伝道師より、自身の実践に基づき、以下のような具体的な工夫やアイデアを助言。 【助言の内容】 ・助成事業により『郷蔵』を造ることを当面の目的として集まった高齢者のネットワークを今後も活かし、継続的な事業を可能としていくためにも、担い手育成が急務。 ・「体験型」の山の暮らしを商品化し、村の活動資金に回す経営戦略が必要。 ・「体験型」の商品を提供する場合、日時指定をするような情報発信側の意識を根本的に変えるべき。「いつでもご予約承ります」という歓迎のスタンスで受け入れること。(シーズン通して対応可能とする商品化) 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●渡邊伝道師から「中長期的ビジョン」の確立について助言されるとともに、あわせて事務局職員から、各まちづくり団体、NPO法人等との連携による周辺地域活性化の相乗効果を狙った発展的なアクションプランを提示することで、今後の方向性や年次ごとの取組をより明確にすることにつながった。 ●「緑の少年団活動」に取り組む小中学校を対象に、森林の大切さ、木材の良さ、間伐材等の国産材の利用の意義を学ぶ学習機会を提供することで、子どもたちがふるさとの良さに気付き、郷土を愛する心を育むことが出来た。 ●中国職業能力開発大学校島根校、島根大学の学生など、ワークショップに参加する若者が増加し、伝統技術の伝承、ものづくりの感性を磨く人材育成に寄与した。 ●幅広い年齢層で「郷蔵普請」に関わりを持たせることで見学者が増え、期待と喜びを共感できる地域の暮らし・学びの拠点づくりの一助となった。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●森や自然に親しむ教室を継続して開催し、地域住民はもとより、周辺自治体にも「山の暮らし」の理解者を募る。 ●山の木が家、家具、小物等に生かされるまでの一連の仕事やそれに従事する人々とを結びつけるネットワークの構築と、持続可能な地域づくりをするための仲間づくり(体制の整備)。 ●古文書に親しむ交流事業の同時展開を行うため、愛好者、案内人(ガイド)、ウェブ上で紹介する基盤整備。 ●「郷蔵普請」の3年間の模様、古文書解説による草木の利活用事例等を展示するなど、森林の恩恵を活用していた先人の知恵を見学できるような施設の充実。 		
今後の方針	<p>着地型プログラムの商品化を目指し、人材発掘・人材育成に取り組み、木材をはじめとする地域産品、体験型プログラム等の開発により、地域で経営できる継続的な事業運営に向けてフォローを行っていく。</p>		

【16】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	観光、交通	相談主体	加藤せい子(吉備野工房ちみち)
派遣伝道師	菊池 新一	ブロック名	中国圏
相談内容	2～3000の古墳が存在し大和に匹敵する吉備文化を紹介するみちくさ小道事業を行っており、この春からJTBと組んで着地型観光を進めている。大手と組む際のノウハウ、お客を呼び込む循環を作る方法を教えてほしい。		
相談への対応内容	<p>●平成23年10月14日(金) 地域活性化応援会(岡山県岡山市会場)の個別相談会 菊池伝道師から実践に基づき、以下のとおり助言。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客はその地域で生活している人、古来から続いている生活を見たい。体験ではなく体感が重要。古墳から今へのつながりを知りたいもの。古墳を紹介する人の生き様や生活にどう近づけるかであって、役者の演じる劇を見たいわけではない。 ・私も旅行業務取扱管理者の資格をとったが、これだけではやっていけないのでJTB等とも組んでいる。NPOでも旅行業務はできる。 ・今住んでいる人が地元で誇りを持ち、その人数を増やすのが車の両輪。外部の人が見てほめてもらうのが大事(「認識の逆輸入」)。 ・とにかく根拠がなくてもいいから自信を持ち、やってみることが大事。 		
成果	●昨年度開催の応援会の個別相談会も参加しており、着地型観光の取組は着実に前進している。「お客を呼び込む循環」を作るには、地元も参加し、訪れた人もまたここに来てみたいと感じさせることが必要だと再認識(リピーターの拡大が必要)		
課題	●みちくさ小道事業をより多くの人に体感してもらい、リピーターになってもらうことが必要。		
今後の方針	引き続き連絡を取り合い、必要に応じて、伝道師派遣も含めて対応していく。		

【17】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	その他	相談主体	伯耆町 (日光地区協議会)
派遣伝道師	豊重 哲郎	ブロック名	中国圏
相談内容	<p>平成19年2月に日光地区協議会が組織され、町の職員が日光公民館に常駐し、地域のイベント等地域住民の融和と活気のある地域づくりに取り組んでいるが、住民は地域の置かれている現状認識が乏しく危機感が少ない。</p> <p>みなで地域を守り発展させるには、地域住民の協力・団結が必要と考えており、住民をうまくまとめる方法があれば教えていただきたい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年10月19日(水) 地域活性化応援会(鳥取県鳥取市会場)の個別相談会 豊重哲郎伝道師</p> <p>・9つの集落を、規模や特性に応じていくつかのブロックに分け、地域住民に対してテーマを振り、具体的な取組を提案させることで、あるブロックは高齢者が多いから福祉の取組を行う、あるブロックは農業が盛んだから加工品生産の取組を行うというような、自立的な取組に誘導することが効果的。</p> <p>地域住民からブロックの特性を活かしたテーマが出てくるようになれば理想的。</p> <p>・地域住民の取組への参加を促すのは、協議会から直接声をかけるのではなく、周辺住民からのアプローチも効果的。</p> <p>例えば、やねだんでは、リーダーが声をかけるのではなく、高校生が率先して取り組んでいることで住民が自ら参加するようになるなどの実例がある。</p>		
成果	<p>●地域住民の団結した主体的な取組を促すために、日光地区協議会が中心となって、働きかけていく方向性が確認された。</p> <p>●今後、日光地区協議会が、「廃校に決まっている小学校の跡地利用を取り掛かりとした地域振興について」をテーマとして、地域住民を対象としたワークショップを開催し、地域振興へ向けた取組を進めていくこととなった。</p> <p>●ワークショップに先立って、農産物を活かした地域づくりについて地域住民へアンケートを行った結果、前向きな意見が多く寄せられた。今後は、野菜や米などの農産物の販売と加工品開発などを行うため、一緒に活動する仲間を募り、地域づくりの一環として推進していくこととなった。</p>		
課題	<p>●開催予定のワークショップを通じて、地域住民の主体的な関与を促すとともに、地域の抱える問題やニーズなどを検証し、実情に合った取組につなげるよう詳細を検討していく必要がある。</p>		
今後の方針	<p>ワークショップ等を通じて整理される、取組みの内容や進捗状況を継続的に把握し、取組みの実施に向けた助言や、地域活性化伝道師の派遣など、必要に応じたフォローを行っていく。</p>		

【18】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	その他	相談主体	大道理(おおどおり)をよくする会
派遣伝道師	横石 知二	ブロック名	中国圏
相談内容	<p>休校となった校舎を活用し、地域の特産物を製作、販売しようと思っている。そのためには高齢者の方に協力していただく必要がある。どのようにしたら高齢者の方がやる気になって協力してくれるか。</p> <p>また、こういった活動は、ボランティアベースでやるべきか、ビジネスとしてやっていくべきか迷っている。当該地域(周南市大道理地区)はボランティアでないとやらない、という高齢者が多い。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年10月31日 地域活性化相談会(山口県周南市会場) 横石伝道師からの助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これからは、自立性も社会性も高いコミュニティビジネス(以下、CB)でやっていくべきだ。それがひいては地域の自立へつながっていく。ただし、田舎の人は儲けることは”悪”だと思っている。もちろん、儲けることを口に出してはダメ。 ・そのためには地域のプロデューサー的な役割の人が大事。そういう人が、お年寄りに対して「仕事をするのが社会にとって、とてもいいことなんだ」と、言い続けなければならない。ただし、伝え方は非常に大事。 <p>●平成24年3月21日 現地視察とフォローアップにおける聴取内容及び内閣官房職員からの助言</p> <p><大道理地区の状況></p> <p>休校となった校舎は、大道理をよくする会の活動拠点として会議の開催のほか、お年寄りの生涯学習活動の拠点として活用している。CBの拠点としても活用したいが具体的な計画はない。</p> <p><主な質疑></p> <p><大道理をよくする会></p> <p>山口県周防大島町ではターンで町に住みつくと有能な方が増えているとのこと。何か仕組みがあるのか。</p> <p><内閣官房></p> <p>横石伝道師も言われていたが、幅広いネットワークを持つ影響力のある人に引きよせられるように移り住むケースが多いようだ。まずは、影響力のある人に住みついてもらうことが大事。「芝桜の取組」などは地区のイメージアップにもなり、きっかけとなり得るのでは。</p> <p>※「芝桜の取組」:地区の有志が田の畔一面に芝桜を植えている。地区内外から多くの人が訪れている。</p> <p>【周南市いのち育む里づくり課担当者から聞き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年4月に当該地域に居住し、地域づくり活動を支援する39歳までの若者を3年間の期限付きで採用。この職員(以下、応援隊員)には、主にCBの支援を担ってもらう予定。 ※ここでいうCBは、「便利屋事業」といって、住民の身の回りのお世話を対価を頂き行う事業。 ・今後3年間で、現在の支所・公民館機能を当該校舎へ移し、交流機能等の地域づくりに必要な機能を設置した上で、当該施設の運営を地域に担ってもらうことが目標。 ・指定管理できれば、指定管理料で地域活動の支援を行う人を雇い(できれば応援隊員を)、CBや加工品の製造・販売、交流事業等を展開し持続可能な地域をつくりたい。 		
成果	<ul style="list-style-type: none"> ●横石伝道師のアドバイスをきっかけに、県や市とも共同で勉強会を開催し、地域づくりに対する住民の意識を高める取組を行っている。 ・市の支援により、来年度CBの支援を行う人材が地域に居住することとなる予定。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ●横石伝道師の言われる地域のプロデューサー的な人材は今のところ育っていないようである。市によるバックアップが現状では欠かせないと思われる。 		
今後の方針	<p>市も当該地域を精力的にバックアップしている。上記課題については市も認識しており、将来はプロデューサー的な役割を担えるよう応援隊員を支援していくようである。</p> <p>市の担当者からは、今後応援隊員がCBの支援等を始めると、障壁となる規制や様々な課題があぶりだされると考えられるので、引き続き当該地域の支援をお願いしたいとの要望があった。当面、伝道師の派遣などの必要な支援を行えるよう、周南市や当該地域といつでも相談できる体制を維持したい。</p>		

【19】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	観光、住宅・まちづくり、農林水産業	相談主体	四万十市役所 中村商工会議所
派遣伝道師	井上 将太（四万十市招聘）	ブロック名	四国圏
相談内容	<p>四万十市では、「賑わいと回遊性の創出・安心安全な生活環境の創造・地域経済の活力増進」という3本柱を掲げて、中心市街地活性化に取り組んでいる。</p> <p>今般、市内の菓子組合の若手が中心となりスイーツの祭典を、新ロイヤルホテル四万十のウェディングフェアとコラボレーションして、来年(平成24年)2月19日(日)に共同開催予定。</p> <p>本イベントが、ただの菓子組合とホテルだけの一過性に終わらず、中心市街地の活性化につながるように、商店街にも人が流れる仕組みが課題。</p> <p>また、四万十市の地元の農産物等を使用して、農商工連携ができないか相談。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成22年10月27日 井上传道師より、四万十市の菓子事業者の若手を中心として四万十市の菓子の文化や豊かな食材を多くの方に知ってもらうため、「四万十スイーツフェスタ」に向け、企画書(案)を提出及び意見交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「今日しか味わえない特別な空間」をコンセプトとして、新作商品を参加する若手菓子事業に依頼。 ・ターゲットは、高校生、20代～30代女性を想定。 ・定員は400名ほど想定し、15テーブル80席とお持ち帰りコーナーを設ける。 ・地元紙を活用した広報等 <p>●平成23年10月17日(月)18:00～20:00 四万十市が井上传道師を招聘し、以下のように助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上地域活性化伝道師より、昨年10月17日に提示した企画書(案)について、出展予定者の反応について、聴取し、(社)中村青年会議所より、13社(者)の参加表明がありと報告。 ・中村商工会議所より、ただの菓子組合とホテルだけのイベントということにならず、中心市街地の活性化につながるように、商店街にも人が流れる手法を考えてほしい。また、補助金に頼らず、自分らで継続的なイベントが実施できる仕組みを考えてほしいと井上传道師へ依頼し、井上传道師より、11月7日に本格的に実行委員会を立ち上げるので、その際に、商店街からも委員を選出していただくように依頼。 ・四万十市役所より、地元の食材を利用できないか質問に対し、井上传道師より、今回のイベントでは、スイーツということなので、LLPのように、四万十市の川エビや青のりなどを使うことは難しい。 ・当方より、1日限定で行うなら、せっかくの機会なので、人気投票などを行い、新しい商品へのマーケティング調査を行って見ては如何かと提案。 ・これらの問題に対し、井上传道師から以下の提案。 ・四万十市で四万十川の恵みを活用した流域米と水を使い、中心市街地にてマッコリの生産を考えている。 ・どぶろく特区としてではなく、年間醸造量6,624リットルであれば、酒税法の、製造許可を受けられれば製造ができるということなので、現在、許可に当たって国税局と相談を始めている。 ・マッコリの原料は米を使用するので、四万十市の米が使用でき、農商工連携ができる可能性がある。 		
成果	<p>●今回の伝道師派遣については、まず、お菓子組合と新ロイヤルホテル四万十とのイベントのタイアップということで話が進んでいたが、今回は、四万十市が井上传道師を招聘し、そのイベントを活用し、四万十市としても、また、中村商工会議所としても、中心市街地の活性化につなげて行っていくことに概ね合意したところである。</p> <p>●また、井上传道師より、四万十マッコリプロジェクト(案)が提示され、農商工連携など視野に入れ、中心市街地の空き店舗を利用しての生産及び地元客並びに観光客用として販売を目的とし、中心市街地活性化を図るもので、四万十市としても前向き検討することとなったところである。</p>		
課題	<p>●イベントを開催することは、いずれにせよ町にも集客が見込まれることから、どのように中心市街地に人の流れを作り、商店街の人の方々を巻き込んだ取り組みとするかが重要。</p> <p>●地元の農産物等の活用及び新しい商品開発など</p>		
今後の方針	<p>本案件の熟度が高まり、既存の中心市街地計画に寄与することが高まれば、国としても先進的な取組の事例紹介等としてなり得ることが想定でき、今後、本案件について、国の総合コンサルティング(伝道師派遣)を実施することも可能と考える。</p>		

【20】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談テーマ	農林水産業	相談主体	愛媛県八幡浜市役所
派遣伝道師	勝本 吉伸	ブロック名	四国圏
相談内容	<p>八幡浜市は日本有数の果樹産地であり、中でも保内地区と日土地区においては、温州みかんはもちろんのこと、伊予柑やデコポン等の中晩柑類まで多くの品種が栽培されているが、主要な消費地である首都圏等において販売促進活動や小学校での柑橘類出前事業を行った際には、「品種の認知度の低さ」や「広く流通していない」などの意見が多く、改善すべき課題を認識した。 柑橘類の首都圏等への新たな販売方法の構築等ができないか相談。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成23年7月1日 香川県高松市において開催された四国圏地方連絡室員会議において、地域の課題について広く募集を行ったところ、愛媛県八幡浜市より「柑橘類の首都圏等への新たな販売方法の構築等」について、相談があり、地域活性化伝道師の派遣要請があった。</p> <p>●平成23年8月～9月 八幡浜市において、地域活性化伝道師として、最も相談内容に適した方を検討した結果、以前より県普及組織、八幡浜市、JA等が連携して事業を推進している点等を考慮し、それぞれの職場での勤務経験がある勝本吉伸氏が適任との判断があり、勝本吉伸氏に地域活性化伝道師の要請を行った。</p> <p>●平成23年12月13日 愛媛県八幡浜市が勝本吉伸伝道師を招聘し、以下の内容について相談。 ・農業後継者の4人で「みかん屋」という団体を立ち上げ、平成22年11月～平成23年4月に首都圏を中心としたモニター30人に対して、月毎の旬の柑橘類をセットにした「旬の柑橘直送便」を毎月お届けする実証活動を行った。 ・その活動の中で、柑橘類の安定供給や消費者との個々のやりとりの難しさを痛感したが、モニターからは「多くの品種を知ることができた」「食べたことのある品種でも、より美味しいものを食べることが出来た」などの意見が寄せられるなど、販売方法としての可能性を強く感じることもできた。 ・今後、「旬の柑橘直送便」を西宇和産柑橘の販売方法の一つとして定着させるために、引き続き検証活動を行うとともに、有識者との意見交換によって、より完成度の高い販売方法を構築して、西宇和農業協同組合に対して提案をしていきたいと考えている。 ・八幡浜市としては、首都圏への販路の構築に加えて、平成25年4月に八幡浜港にオープン予定の複合施設内の産地直売場にも出品させたいと考えている。</p> <p>これらの問題に対し、勝本吉伸伝道師から以下の提案があった。 ・一足飛びに首都圏等に展開するのは難しい部分もあるので、まずは平成23年にオープンした市内の直売所において、販売方法等についての試行を行うことが良いのではないかと。 ・直売所の販売方法には細かい規定があるので、農協等の関係者に確認しながら進めてほしい。 ・直売所での販売により、顧客のニーズを直接聞くことができるので、そこで得られる経験等をもとにして、首都圏等への販売に活かしてほしい。</p>		
成果	●具体的な成果はまだ表れていない。		
課題	<p>●将来的に首都圏に販路展開していくにあたり、まずは様々な品種への認知度の向上や顧客のニーズをつかむことが重要。 ●柑橘類のみならず、他の地元特産物と連携した活用及び新しい商品開発など。 ●農業関係者だけではなく、地元全体を巻き込んだ取り組みとすることが重要。</p>		
今後の方針	本案件の熟度が高まり、八幡浜市全体における取組みとしての機運が高まれば、国としても先進的な取組として引き続き総合コンサルティング（伝道師派遣等）を実施することも可能と考える。		

【21】地域活性化・総合コンサルティング業務報告書

相談分類	地域産業、農林水産業 (小呂島の特産品づくりについて)	相談主体	小呂島しまづくり協議会 福岡市企画調整部
派遣伝道師	中澤 さかな	ブロック名	九州圏・沖縄県
相談内容	<p>小呂島では、漁獲高及び魚価の低迷による収入減や女性の就労環境の確保等の課題に対処するため、小呂島しまづくり協議会を組織し、特産品づくりに重点を置いた「小呂島しまづくり計画」を策定したところ。「小呂島しまづくり計画」に基づき「特産品づくりアクションプラン」の策定を開始するにあたり、地域の水産資源を活用した加工品の開発や販路の開拓に実績のある地域活性化伝道師の中澤さかな氏に具体的なアドバイスをいただくとともに、しまづくりを進めるにあたっての心構えを島民に説いてほしい。</p>		
相談への対応内容	<p>●平成24年1月10日 島民集会及び意見交換会(小呂島しまづくり協議会主催) 中澤さかな伝道師講演 小呂島しまづくり協議会主催の島民集会及び意見交換に参加。全島民206名中、高齢者と子供を除いた約100名が参加した島民集会では、「小呂島しまづくり計画」が公表された後、中澤伝道師が「小呂島の特産品づくり」をテーマとした講演を行った。引き続き開催された協議会との意見交換では、「特産品づくりアクションプラン」の策定に向けたコンサルティングを実施。講演会及び意見交換の概要は以下のとおり。</p> <p>(特産品づくりについて) ・第一に競争力のある商品であることが重要。特徴があるもの、まだ世に出回っていないものを作らなければならない。そうでなければ、価格競争に巻き込まれて失敗してしまうだろう。 ・第二に郷土料理からヒントを得ること。地域の食文化に根差した商品であればある程、成功しやすいのは間違いない。例えば、岡山県の北木島では採石場という地域資源を活かした「灰干し」という伝統的な製法を用いて干物を製造・販売している。魚特有の臭みがない上に味も良いので、大阪や岡山の百貨店でも取扱を開始するなど、ヒット商品になりつつある。この「灰干し」という製法を採用しているのは、全国的にも数が少なく、特徴ある地域産品づくりの好事例と言える。</p> <p>(加工品製造に必要な設備について) ・冷蔵庫・急速冷凍機・フレークアイスメーカー・保管用冷凍冷蔵庫・舟形シンク・レトルト製造機・燻製機・真空パック機・ラベルプリンターといった設備が必要不可欠。 ・小呂島の場合、初期投資として1000万円程度が見込まれるため、行政の支援ツールを上手に活用していくことが重要。</p> <p>(販路の開拓について) ・特産品づくりの立ち上げにあたって、ついつい後回しになってしまいがちなのだが、「どこに売するのか?」という戦略的な視点を持つことが大切。博多という大消費地に小呂島の商品を置いてもらうための方法を今から考えておかなければ、特産品づくりに成功したとしても売る場所がないという事態に陥ってしまう。 ・料亭や大手スーパー・百貨店等のバイヤーに小呂島に来てもらい、商品開発の段階から参画してもらうのが最も効果的なやり方だろう。その際、小呂島とバイヤーとのファーストコンタクトについては、福岡市が責任をもって支援すること。</p> <p>(しまづくりにあたっての心構えについて) ・離島振興の父と言われた民族学者の宮本常一先生は、著書の中で「喫緊の課題はあれこれあれど、『あれもこれも』ではどれひとつモノにならない。『あれかこれか』に絞って、島ぐるみで取り組むことが成功への近道だ」との言葉を残されている。 ・今後、特産品づくりを進めるにあたっては、この言葉を肝に銘じて努力していただきたい。</p>		
成果	<p>●地域活性化伝道師の中澤さかな氏の講演会には、全島民206名中、高齢者と子供を除いた約100名が参加し、行政としても特産品づくりに対する島民の熱意を改めて感じているところである。 ●来年度、福岡市の離島支援計画が改定される予定であり、その中に小呂島の「しまづくり計画」に盛り込まれた要望を積極的に取り入れていく予定。 ●地域活性化伝道師の中澤氏には今後も島民への支援を継続していただける見込みであることから、必要経費(旅費・謝金等)について、福岡市で手当することを検討。 ●福岡市として、今回の成果を県の担当部局に報告し、支援の在り方についても相談を進めていく予定。</p>		
課題	<p>●小呂島では3月末までに「特産品づくりアクションプラン」を策定する予定であり、ソフト事業については24年度から動きたいとのことだが、ハード事業については25年度からとならざるをえない見込み。</p>		
今後の方針	<p>小呂島への地域活性化伝道師派遣を踏まえ、小呂島の地域活性化に係る今後の課題と支援の在り方について福岡市との意見交換を実施するとともに、九州圏・沖縄県地方連絡室内の情報共有を図る観点から、幹事局である九州運輸局にも参加を依頼する。 各省の支援ツールに関する相談対応には九州圏・沖縄県地方連絡室を積極的に活用する。また、次の展開に向けて地元の熟度が高まった際には、地域活性化統合事務局による地域活性化伝道師派遣を改めて検討したい。</p>		